

一般社団法人

日本女性科学者の会 NEWS

*The Society of Japanese Women Scientists***No.116 2015.3****I. 第10回学術大会・2015年新春懇談会を成功裡に終えて**

一般社団法人 日本女性科学者の会 会長 大倉 多美子

新春を迎え皆様お健やかに過ごしのこととお喜び申し上げます。

昨年、当会は4月1日付で一般社団法人へ移行しました。1年が経過いたしました、その間、大変革の年となり、特に理事の方々には社会的な義務と責任が強化され、ご負担とご苦勞をお掛けすることとなりました。また多くの会員の方々のご参加・発表による国内外での大きな事業が年末まで続き、隔年ごとの学術大会秋季開催を九州ブロック(中国・四国・九州・沖縄)にお願いしておりましたが、日程調整が難しく昨年秋に開催をすることができませんでした。そこで初めて、理事会・学術大会・新春懇談会の地方での同時開催をすることになりました。2015年1月10日・11日に理事会・学術大会・新春懇談会を九州ブロックの皆様のご尽力により福岡で開催することができ、地域の活性化、新しい会員同士の交流など、成功裡に終えることが出来ました。試行錯誤の年でしたが、会員の皆様方のご尽力、ご協力で無事乗り切ることができ感謝しております。現在、

会長、理事及び監事の任期満了に伴う全会員による選挙が行われ、4月から新体制になります。当会も日本の理系リーダーとしての自覚を持った、力のある団体として、国連へ、政府へ、行政へ積極的に働きかけ行動していく時期に来たと思われます。



今年は戦後70年、女性が参政権を得てから70年、1985年女性差別撤廃条約批准から30年、さらには、1995年阪神淡路大震災の年に開催された世界女性大会北京会議から20年の節目の年です。女性差別撤廃条約批准により1985年に男女雇用機会均等法ができ、世界女性大会北京会議により科学分野を含めた男女共同参画社会基本法が1999年に成立、本年11月には第4次基本計画が策定されます。日本は男女格差を測る、経済、教育、健康、政治参画を含めたジェンダーギャップ指数(GGGI)が142カ国中104位(2014年)と、日本女性の現状は世界の女性から大きく遅れています。

安倍首相の海外での演説の中身の2/3が「女性が輝く社会の環境づくり」について述べられているように、本年は女性が一致団結すべく大切な年となり、日本女性科学者の会としてもこの流れをしっかりと捉え、男女が共に輝く社会の構築に向けて、身を引き締めて活動することが重要だと思われます。

4月からの新体制で、さらなる情報並びに参加発表の場の提供、若手の会員の交流・勉強会等に力を注いでいく所存であります。なお一層の皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

目次

I. 第10回学術大会・2015年新春懇談会を成功裡に終えて.....	1
II. 第10回学術大会・2015年新春懇談会報告.....	2
III. 2015年新春懇談会 特別講演	5
IV. 国・地方連携会議ネットワークを活かした男女共同参画推進事業.....	6
V. 会員の活躍・お知らせ.....	7
VI. 学術大会と新春懇談会風景.....	8

第10回日本女性科学者の会学術大会プログラム

日 時：2015年1月11日（日）13：00～16：30

場 所：アクロス福岡 セミナー室2

参加者：31名

開会の辞 第10回学術大会実行委員長 小島 秀子

セッション1：一般演題発表（座長 藤井紀子、福原正代）

13：00～13：20

唾液プロテオーム解析によるリラックスマーカー探索

玉井幸恵¹、清水智美¹、永井文乃¹、熊谷晶子²

安田女子大薬¹、八戸大人間健康²

13：20～13：40

包接能を利用した内毒素吸着剤の開発

坂田 眞砂代¹、木村かさね¹、上園康史¹、戸所正美²

熊本大・院自然¹、JNC²

13：40～14：00

シアル酸結合レクチン（SBL）のマウス白血病細胞に対するアポトーシス誘導機構

小川由起子¹、藤井佑樹¹、菅原栄紀²、細野雅佑²、立田岳生²、小出康裕³、Imtiaj Hasan³、

小林秀光¹、大関泰裕³

長崎国際大薬¹、東北薬大分子認識²、横浜市大糖鎖生物³

14：00～14：20

発達神経毒性評価の *ex vivo* 評価系をめざして—女性研究者ネットワークで紡ぐ共同研究体制

笛田由紀子¹、関野祐子²、吉田祥子³、上野 晋⁴

産業医大産業保健¹、国立医薬品食品衛研 薬理²、豊橋技術科学大環境・生命工学³、産業医大産業生態科学研⁴

14：20～14：40

教育から女性科学者のグローバルネットワークづくりへ
武 洲

九大院歯 口腔分子科学 薬理

14：40～15：00

研究、発明と特許

角谷治子

筑波大ビジネス科学研究科、オーロラ国際特許事務所

15：00～15：30 コーヒーブレイク

セッション2：新春懇談会・特別講演（座長 功刀由紀子）

新春懇談会挨拶 日本女性科学者の会会長 大倉 多美子

15：30～16：30

【特別講演】ことだま・ことのは

谷口初美（産業医大・医・微生物 教授）

閉会の辞 日本女性科学者の会会長 大倉 多美子

懇親会：17：00～19：00 博多エクセルホテル東急 バンケットルーム「メール」



中国四国九州沖縄支部 実行委員会

実行委員長 小島 秀子

事務局 小川 由起子

〒859-3298 長崎県佐世保市ハウステンボス町 2825-7

長崎国際大学薬学部内（0956-20-5611）

会 計 大住 祥子

実行委員 坂田眞砂代、相良かおる、城崎由紀、玉井幸恵、
武 洲、笛田由紀子、福原正代

顧 問 谷口 初美

第10回日本女性科学者の会学術大会・新春懇談会報告

第10回日本女性科学者の会 学術大会・事務局

長崎国際大学薬学部 小川 由起子

平成27年1月11日、日曜日に第10回日本女性科学者の会学術大会が初めて九州の地、福岡にて開催された。今回は、大会テーマを「西日本からの発信－アピールしよう！今の自分を－」とし、新春懇談会と合わせてアクロス福岡で行われた。当日は天候にも恵まれ、学部学生4名（うち留学生3名）を含む31名の参加があった。セッション1の学術大会では、様々な分野の研究者から6演題の口頭発表がなされた。40名の被験者からの唾液を用いてのプロテオーム解析によるラックスマーカーの探索、ワクチン原材料などからのエンドトキシン(LPS)の吸着除去を目的とした高分子微粒子の開発、副作用の少ない癌抑制タンパク質の研究、現行の発達神経毒性ガイドラインの欠点を克服した発達毒性試験法の開発ではそれぞれの研究の最前線でご活躍されている先生から大変興味深い講演を聞くことができた。また、ご自身の留学生から大学教員になった経験をもとに女性科学者のグローバルネットワークづくりに力を注がれる武先生のご講演は、世界と日本の女性科学者の架け橋として女性の地位向上にも大いに貢献しており、私たち女性科学者の会会員も女性科学者の地位向上のために一層努力していかなければいけないと考えさせられた。自然科学研究と特許出願についての角谷先生のご講演では特許出願の様々な問題点とその対応が紹介され、特許制度の知識を心得て研究成果を真に社会の発展に生かす方法を考えることが必要であることを考えさせられた。それぞれの討論では若手研究者と経験豊富な研究者、留学生との意見交換、異分野の研究者間の活発な交流がみられた。会場からの質問、意見が相次ぎ、時間に制限があるため討論を打ち切らなければならず、非常に残念であったが、十分に西日本からの発信をアピールできたのではないかなと思われる。この講演要旨集は、大会に参加できなかった中国四国九州沖縄支部会員に郵送した。セッション2の新春懇談会で谷口先生の今までの研究生活についてのご講演がなされた。

大倉会長の閉会のご挨拶後、懇親会は博多エクセルホテル東急に場所を移し、19時まで和やかに行われ、閉会となった。初めての九州での学術大会であったが支部会員力を合わせて無事に盛会にて会を終了することができた。最後に、本学術大会開催にあたり、支部会員をはじめたくさんの先生方にご協力いただきましたこと、大変感謝しております。心から御礼申し上げます。

2015年新春懇談会開催報告

第10回日本女性科学者の会学術大会・新春懇談会実行委員長

早稲田大学 ナノ理工学研究機構 小島 秀子

2015年1月11日(日)に開催した第10回学術大会に引き続いて、新春懇談会が同会場のアクロス福岡において開催された。例年の新春懇談会は学術大会とは別の日程で開催されてきたが、今回の学術大会は新年早々の開催となったため、合わせて開催された。大倉多美子会長から開催挨拶をいただいた後、産業医科大学教授で前九州支部長の谷口初美先生による特別講演が、「ことだま・ことのは」と題して行われた。40年余りにおよぶ研究生活を終えるにあたっての総括となる講演内容で、「産業医学における微生物学とはなにか」を模索する中で、廃棄物処分場での有毒ガスによる労災事故の対策のために細菌叢解析を始めて行い、独自の研究を切り開くことができたこと、さらに、その研究が東北震災の津波の影響を受けた環境の生物学的リスク因子の評価に生かされ、実際に貢献できたことが話された。また、同大学医学部の女子卒業生の支援のためにアリスの会を立ち上げられたとのことと特筆に値する。豊富な経験談に基づいた、笑いあり涙ありの研究者の一生をダイジェストで拝聴することができ、参加者一同、贅沢で満足度の高い時間を過ごすことができたと思われる。これからも元氣でご活躍されることを祈念する次第である。

今回の学術大会と新春懇談会を通じて、西日本地区の会員の活発な研究活動状況をアピールでき、大会テーマである「西日本からの発信－アピールしよう！今の自分を－」を十分達成することができたと思われる。これを糧に今後の支部活動のさらなる活性化を期待したい。最後に、本会の開催準備に奔走して下さった事務局はじめ実行委員の皆様、ご参加いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

学術大会・新春懇談会に参加して

九州大学大学院・歯学研究院 武 洲

先日、「第10回日本女性科学者の会」の学術大会に参加させて頂き、多くの学術活動の第一線で活躍している女性科学者と出会えたことをとても嬉しく思っております。

学術発表セッションにおいては、安田女子大学の玉井先生の唾液中にストレス緩和を評価できるバイオマーカーが存在する可能性、熊本大学の坂田先生のエンドトキシン(LPS)吸着剤の開発、長崎国際大学の小川先生のウシガエル卵由来レクザイムの抗腫瘍効果、産業医科大学の笛田先生の自閉症モデル動物を用いた発達神経毒性のex vivo評価法の開発という自分の分野と異なる女性科学者の研究に触れられ、研究に対する視野を広げることが出来ました。さらに、筑波大学兼オーロラ国際特許事務所の角谷先生から自然科学研究と特許出願についての話を伺い、研究者として特許制度と知識を学び、研究成果を真に社会の発展に生かす意味と方法を考えるべきと認識する良い機会になりました。

続いて開催された新春懇談会の「ことだま・ことのは」という特別講演にて、産業医科大学の谷口先生が41年間、研究の真髄を追求し続けた興味深い話をされました。先生の研究に対する熱意に感動いたしました。

今回の学術大会では、私も留学生から大学教員になった自分自身の経験を初めて発表し、大倉会長を始め、各先生方に励ましのお言葉を頂き、感謝しております。今後、日本女性科学者の会の「女性科学者の地位の向上、世界の平和に貢献」という理念を胸に、これからも専門分野の研究を極めながら、女性科学者グローバルネットワークづくりにも励んでいきたいと思っております。

Joining the academic meeting of the society of Japanese Woman Scientists

Yi cong Liu

Graduate School of Dental Science , Kyushu University

It was really my honor to join the 10th academic meeting of the Society of Japanese Woman Scientists in Fukuoka a few days ago. This was the first time for me to know such amazing women scientists who work actively in Japan. I enjoyed so much to share the passion with the women scientists. I need, however, to improve my Japanese to learn more academic details from them. I am a first-year PhD student at Kyushu University from China. I am encouraged to learn more to become an academic leader of China via joining such a kind of academic meetings. I will do my best to work as a bridge between Japan and China in the not-so-distant future.

「新春懇談会に参加して」

関西医科大学名誉教授 玄番 央恵

福岡で開催された新春懇談会に、例年には余りないような、どこか温かくて気楽に何でも、出会ったばかりの人々と、年齢の差があってもなくても全く気にならずに本音で語り合いたくなる、そんな雰囲気を感じたのは、私ひとりだけでしょか。

本懇談会が例年とは異なり、学術大会に引き続いて行われたことが会話の活発化に寄与したのかも知れませんが、会話の盛り上げ効果は学術大会の内容に依ることは言うまでもありません。その内容ですが、従前の学術大会にはなかった新しい点、それは女性研究者ネットワークによる共同研究体制が我が国に既に存在し、機能していること、そしてさらに、女性科学者のネットワークを我が国だけでなくもっとも海外に拡げ、グローバルなものにしようという、わくわくするような大構想を、私は本大会で聞き、嬉しくなりました。後者のグローバルネットワークについてですが、武洲(たけひろ)さん(九大院歯・教員)の発表内容、および本懇談会での個人的な雑談等を併せて考えますと、彼女が中心となって、中国からの女子留学生を増やして九大で学ばせ、一方、アジアや欧米の女性科学者等と学術シンポジウムを開催したり、共同研究を行ったりすることにより、グローバルネットワーク作りを一步また一步と確実に前進させているように、私には思えました。彼女のパワーに脱帽です。

美味しい料理は、人々が会話を楽しみながら心地よく時を過ごす際に大切な役割を演じることは、古今東西、自明の理ですが、本懇談会で味わった海の恵み、殊にあの、辛子明太子は最高でした。

ことだま・ことのは

産業医大・医・微生物 谷口初美



昭和 43 年学園紛争で大荒れの中、九大薬学部に入學しました。したがって pure science の一端は修士課程（微生物薬品科学教室（堀内教授））で初めて見る事ができました。‘working hypothesis（作業仮説）は 360 度検証した上で構築する。予想外の結果は検証が不十分であることを示す’ というような指導を受けました。計画研究、要素還元主義的かつ戦略的研究の考え方の基本となりました。

昭和 49 年、病原微生物の知識がないまま医学部に就職し、以来 41 年間、医学微生物学の教育研究に携わるようになりました。九大・医・細菌学教室助手に採用される時、武谷教授（第 15 代九大総長）に‘医学部の研究は患者さんのためのものであることを忘れないように’と言われました。そこで九大では結核の研究を開始し、昭和 55 年に産業医大に移ってからは腸炎ビブリオの毒素の研究をしました。しかし、臨床の先生からは‘臨床現場に役立つ研究をして欲しい’と言われ、医学教育を受けていない身としては手探り状態に陥りました。

平成 11 年産業医大微生物学教室の教授になった年、廃棄物処分場で硫化水素ガスのために従業員が 3 名死亡すると言う事故が起きました。これは酸欠症で労災事故です。このような労働現場で発生する硫化水素ガスは微生物の代謝産物ですが、‘根本原因の微生物の検査をするところがない、そのために根本対策がとれない、産業医大なら何とかしてもらえないのではないか’と対策を求められました。平成 14 年から 3 年間、環境省廃棄物処理等科学研究費の補助を受けて網羅的細菌叢解析システムを構築し、平成 19 年には検査を受注するためのベンチャー SMART・LLP（産業医大微生物解析研究開発有限責任事業組合）を開設しました。次世代型シーケンサーが世に出る前でした。非要素還元的、非戦略的で、‘研究ではなく検査にすぎない’との批判も受けました。しかし、各種土壌、水、空気などのデータを積み上げました。

平成 23 年 6 月からは、東北震災後の津波の後の、感染リスクを評価するために、2 年間、がれきやヘドロの夏冬の検体を解析しました。一方、臨床からは原因菌が特定できない検体の解析依頼がくるようになりました。単発の検査検体だけでなく、呼吸器科、眼科、歯科、産婦人科、内科からの大学院生は、各科で難渋している症例の解析結果を研究レベルにまとめ、学位を取得しました。また呼吸器の検体からは新規微生物を発見し、第 1 報を報告する事ができました。非計画的ではあったものの、従来の概念では解決できなかった問題に切り込む方法を確立し、予測しなかった発見をする事が出来ました。

研究を退くにあたり、少なくとも大学では非計画的、非戦略的研究を容認していただきたいと思います。最近、ノーベル賞受賞者のアーサー・コンバーグ博士が近年の研究資金の運用に異を唱えられた「Best plan is no plan.」という言葉に出会いました。

振り返れば多くの言葉に勇気づけられながら、落ち込みながら 41 年間の研究生活を暗中模索してきました。東北震災・津波の後、4 月 23 日福島第一原発免震棟に集まった各部署（厚労省、広島大学、新潟労災、救急医学会、東電、産業医大）からの代表者が、みな産業医大卒業生で、‘共通言語があったから迅速に適切な対応ができた’と報告を受けました。教育現場は学生さんが言葉に生かされ、自ら育つ環境ではないかと思います。先生といえども、自分の言葉にいちいち責任は取れないと愚かにも思ってきましたが、自分の言葉に責任を取れる人が先生と言われる資格があるのだろうか？だからこそ、教育者が‘聖職者’と言われていたのだろうか？と反省しています。この理念があれば、セクハラやパワハラの問題も起きないのかもしれない。自身の言葉が学生さんにどのような影響を与えたか、無意識に言葉を乱発してきた教員生活を自戒して、また勇気づけられた言葉との出会いに感謝して、特別講演のタイトルを‘ことだま・ことのは’とさせて頂きました。

男女共同参画推進事業報告

あなたが創る未来に向けて～理系の資格と仕事～

岐阜薬科大学薬学部 永澤 秀子（東海支部長）

去る12月21日(日)に名古屋駅近くの愛知大学名古屋キャンパスにおいて、本会及び内閣府の主催による国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業「あなたが創る未来に向けて～理系の資格と仕事～」が開催された。本事業の開催に当たり、愛知大学、岐阜薬科大学、岐阜大学、名古屋工業大学の共催、愛知県、公益財団法人あいち男女共同参画財団、名古屋市男女平等参画推進室、愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、名古屋市教育委員会、岐阜市教育委員会、公益社団法人日本診療放射線技師会の後援、その他複数の団体や企業からの協賛など各方面より多大なご支援を頂いた。年末の多忙な時期にもかかわらず、中高生やその父兄などの一般参加者79名、大学及び大学院生ファシリテーター25名、本会会員13名に加え、7名の講師を迎えて総勢124名の参加者による熱気溢れる大変充実した会となった。

さて、当日は10時より、大倉多美子会長の開会挨拶に引き続いて、「理系の楽しさ、仕事の喜び」と銘打って第一部の講演会が開催された。まず、びわこ成蹊スポーツ大学学長、前滋賀県知事の嘉田由紀子氏による「私の歩んだ道」では、ご自身の学生時代のお話から我が国の女性労働人口の変遷やその問題点など、多岐にわたる内容が軽妙な語り口で魅力的に語られた。岐阜大学医学系研究科皮膚病態学教授の清島真理子氏の「医療における女性医師の立場と役割」では、息子さんから小学生時代に送られたお手紙が紹介され、多忙な生活の中の子育ての喜びに溢れたお話に会場がしんと静まり聞き入った。岐阜薬科大学教授の寺町ひとみ氏の「薬の専門家”薬剤師”をめざして!!」では、これから薬剤師を目指す学生たちに対して、薬剤師の役割や薬学教育の実際についてわかりやすく説明された。塩野義製薬株式会社グローバルSCM本部生産戦略部長の池田かおり氏の「製薬会社で医薬品を開発する」では、ピアニストから創薬科学者への方向転換、そして創薬の醍醐味について熱く語られた。名古屋工業大学産学官連携センター教授の浜田恵美子氏の「企業、メーカーにおける”私の強み”の作り方」では、企業での大発明、昇進の厳しさ、大学教授への転身など紆余曲折を経て、なお新しい道を切り開こうとするポジティブな生き方に多くの学生が勇気づけられた。刈谷豊田総合病院放射線技術課副部長の桑山真紀氏の「診療放射線技師抜きでは医療は語れない!」では、高度な専門技術を身につけた診療放射線技師の仕事についてわかりやすく紹介された。日本特殊陶業株式会社経営管理本部経理部資金管理課課長の太塚悦子氏は、「適材適所から新たな自分を発見」というタイトルで、自動車好きのエンジニアがなぜ経理部で働いているのか、ユニークな仕事の選び方について語られた。

第二部では、学生ファシリテーターと一般参加者が12班にわかれて、グループごとに「働く意義について」と「10年後のあなたはになりたい?そのためには学生時代に何をすべきか」という2つのサブテーマについて語り合い、最後にパワーポイントファイルにまとめて、各班を代表して中高生が3分間の発表を行った。「働く意義」には、人生を楽しむ、ゆたかな人生、経済的自立、やりがい、社会貢献、納税の義務など、至極まっとうで真面目な職業観が述べられ、また、様々な10年後の夢とそれに向かう前向きで積極的なto doリストが紹介され、とても頼もしく、感心させられた。

最後に内閣府の酒井香世子氏からの閉会挨拶の後、再び大倉会長が登壇され、講評と次世代を担う参加者に心のこもったエールを送られ、盛況のうちに幕が閉じられた。



グループディスカッション



各グループ発表



V. 会員の活躍

受賞・表彰者一覧（2014）

1. 愿山（岡本） 郁
京都産業大学 総合生命科学部 生命資源環境学科
日本遺伝学会第86回大会（2014年9月）奨励賞
2. 懸橋 理枝
地方独立行政法人大阪市立工業研究所
第5回女性科学者奨励賞
公益社団法人日本油化学会
3. 宮本 悦子
東京理科大学 生命医科学研究所
学術奨励賞（2014年9月東京理科大学理窓博士会）

編集：山口 陽子・大富 美智子・猪俣 芳栄
小杉 尚子・四谷 理沙

発行所：一般社団法人 日本女性科学者の会 ©

事務局：〒160-0015

東京都新宿区大京町 13-15-203

慶應義塾大学医学部 大倉気付

TEL/FAX 03-6802-6708



事務局からのお知らせ



「日本女性科学者の会の総会および第20回奨励賞・功労賞贈呈式」が2015年5月31日(日)午後に
学士会館で開催されます。

詳細は後日お知らせいたしますが、まずは日程の調整をして頂くことで、多くの会員の皆様が参
加されますように、よろしくお願い申し上げます。

